

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原北小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 17人

② 算数 17人

5 留意事項

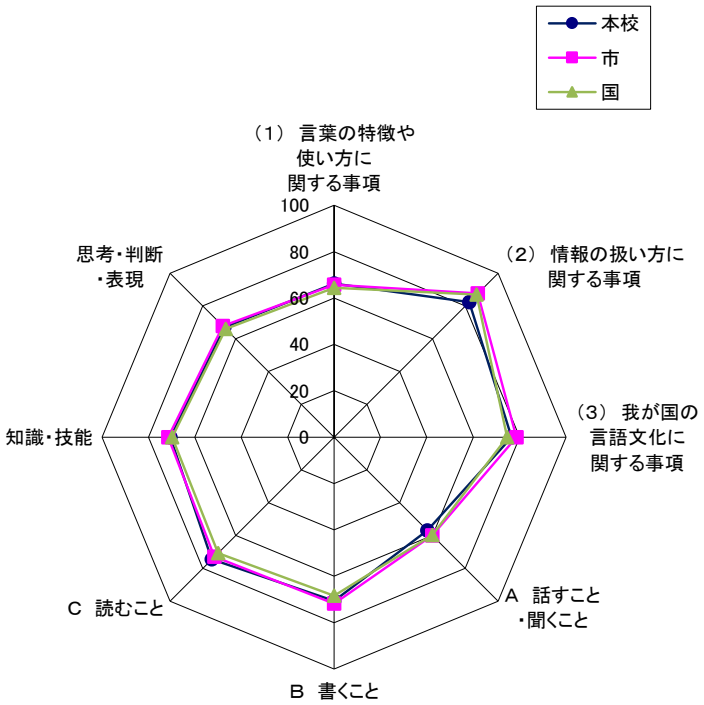
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原北小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	66.2	65.7	64.4
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	82.4	87.6	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	76.5	78.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	56.9	59.9	59.8
	B 書くこと	70.6	71.8	68.4
	C 読むこと	74.5	72.9	70.7
観点	知識・技能	70.6	71.5	69.8
	思考・判断・表現	66.9	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

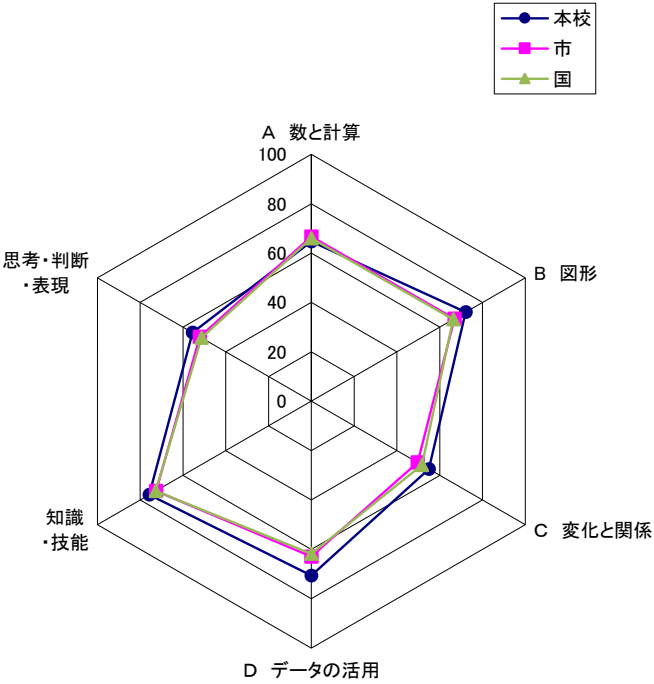
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市とほぼ同じで、国より1.8ポイント高い。 ○漢字を文の中で正しく使う問題の正答率は、国より9.5ポイント高い。話し言葉と書き言葉の違いに気付く問題は、国の正答率よりやや高い。 ●文の中における主語と述語との関係を捉える問題では、国より3.5ポイント低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の学習については、引き続き家庭学習等で取り組ませるなど、継続的に指導する。また、文章を書くときに、学習した漢字を使わせたり、作文指導の際に辞書を活用させたりする。 ・主語と述語の関係に関して、学習プリントなどで復習を行うことにより定着を図る。
(2) 情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、市より5.2ポイント、国より4.5ポイント低い。 ●情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解する問題の正答率は、国より4.5ポイント低い。	・資料の内容を読み取って文章に適切に書き表す活動は、社会科や総合的な学習の時間など、他教科でも取り組み、定着を図る。また、読み手のことを意識しながら情報をまとめる力を伸ばすために、文章を互いに読み合う活動を継続して行う。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市より2.1ポイント低く、国より1.9ポイント高い。 ○●空欄に入る内容として適切なものを選択する問題の正答率は、市より2.1ポイント低く、国より1.9ポイント高い。	・伝記や感想文、報告文など様々な目的で書かれた文章や、レポートやレシピ、メモなど様々な形態の文章などにも触れられるよう、読書活動の充実を図り、授業中感想を書いたり、友達と意見を交流したりする機会を設け、繰り返し行い、習熟を図る。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、市より3.0ポイント、国より2.9ポイント低い。 ○目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討する問題では、国より0.9ポイント高い。 ●資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるような表現の工夫として適切なものを選択する問題の正答率は47.1%で、国より5.8ポイント低い。	・授業や学級活動などでの話し合い活動を充実させ、話題に沿って資料を集め、資料を活用して自分の考えが伝わるよう述べる機会を設ける。 ・会話科において、相手意識を大切に活動した活動を継続的に指導し、実践的コミュニケーション力を育成する。
B 書くこと	平均正答率は、市より1.2ポイント、国より2.2ポイント低い。 ○目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にする問題では、国より7.9ポイント高い。 ●目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題では、国より3.7ポイント低い。	・目的や意図に応じて自分の考えを明確にして文章にする活動や字数や自分の考えが相手に伝わるような構成や文章表現を意識するなどして、短作文を書く活動に取り組ませる。
C 読むこと	平均正答率は、市より1.6ポイント、国より3.8ポイント高い。 ○人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる問題では、国より9.8ポイント高い。 ●人物像を具体的に想像することができるかどうかをみる問題の正答率は、国より1.9ポイント低い。	・人物像を具体的に想像して読んだり、物語の全体像を捉えながら読んだりできるよう指導する。また、内容や登場人物に対する自分の考えをまとめる活動を計画的に取り入れる。

宇都宮市立清原北小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	64.7	66.7	66.0
	B 図形	72.1	66.9	66.3
	C 測定			
	C 変化と関係	54.9	49.6	51.7
	D データの活用	70.6	62.9	61.8
観点	知識・技能	75.8	72.6	72.8
	思考・判断・表現	55.5	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、市より2ポイント、国より1.3ポイント低い。 ○問題場面の数量の関係を捉え、式に表す問題では、正答率が国より8.5ポイント高い。 ●計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答え方を式や言葉を用いて記述する問題では、正答率が県より国より15.7ポイント低い。	・成り立つ性質を活用して、求め方や答え方を考えることはできているが、その理由を式や言葉、図を用いて説明ことに苦しさがあるため、考えを言葉で説明するだけでなく、自分の考えが相手に伝わるように記述する機会を設けたり、記述したものを使って発表したりする場面を設ける。
B 図形	平均正答率は、市より5.2ポイント、国より5.8ポイント高い。 ○球の直径の長さや立方体の辺の長さ関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表す問題では、正答率が国より16.4ポイント高い。 ●直方体の見取図を書く問題では、正答率は国より3.1ポイント低い。	・実際に図形を描いたり、プログラミングを行って描いたりするなどの体験的な学習活動や操作的な学習活動を取り入れ、図形の性質や構成要素に着目させて理解を深める。 ・実際に図形を展開し、対応する辺や面の長さをに着目する場面を設ける。
C 変化と関係	平均正答率は、市より5.3ポイント、国より3.2ポイント高い。 ○速さの意味を正しく理解しているか問う問題では、正答率が国より16.5ポイント高い。 ●道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題では、正答率が国より7.5ポイント低い。	・速さは日常生活においてよく使われる内容であるため、日常生活において活用されている場面を取り上げ、答えを求められるようにする。 ・考えを言葉で説明するだけでなく、自分の考えが相手に伝わるように言葉や数、図を使って記述する機会を設けたり、記述したものを使って発表したりする場面を設ける。
D データの活用	平均正答率は、市より7.7ポイント、国より8.8ポイント高い。 ○折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述する問題では、正答率が国より20.7ポイント高い。 ●示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるか選ぶ問題では、正答率は国より3.6ポイント上回っているが、52.9%と6割に満たない。	・折れ線グラフの表す意味や読み取り方を再度確認し、2つのグラフを比較しながら違いを読み取れるように、グラフのどの部分に着目すればよいのかを視覚的に表示するなど、工夫して指導を行っていく。 ・複数のグラフを組み合わせたグラフの読み取り方を、段階を追って読み取れるように、視覚的な表示の仕方を工夫する。 ・グラフから読み取ったことを、言葉や数字を用いて説明できるように、グループの中で説明し合うなど、学習の形態を工夫する。

宇都宮市立清原北小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことは守っていますか」の質問では、肯定割合児童が多い。引き続き、情報モラルの内容を扱った授業を行うとともに、家庭への啓発も行っていきたい。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」の質問では、肯定回答が100%であった。引き続き、いじめゼロ強調月間やいじめゼロ集会、道徳の授業などでいじめ撲滅に向けた指導を続けていきたい。

○「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」の質問では、肯定回答が100%であった。普段から誰かのために働きたいという気持ちをもち学校生活を過ごしていることが分かる。

○ICTに関する質問では、学校の様々な場面で活用している様子が分かる。さらに、「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使用し楽しみながら学習を行っていますか。」という質問や「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使用し自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができますか。」という質問では、肯定割合が100%であった。今後も、使うことを目的にするのではなく、活用することで一人一人の学習支援につながるような活用方法を考え、実施していきたい。

●「自分にはよいところがあると思いますか」という質問では、肯定割合が全国や県に比べ下回っている。一人一人の良さを学級全体で認め、励まし合い、自己肯定感を高められるような支援を続けていきたい。

●「英語の勉強は好きですか。」の質問では、肯定回答が52.9%で、全国よりも下回っている。また、「英語の勉強は大切だと思いますか。」の質問では、肯定回答が82.3%で、全国よりも下回っている。自分の生活の中で活用できる内容を意図的に取り上げ、児童が主体性をもって学習に取り組めるように指導の改善に努める。また、今後、児童がコミュニケーションツールとしての生きた英語を使えるような手立ての工夫を行い、楽しく取り組めるように指導していきたい。

宇都宮市立清原北小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
児童一人一人の達成感や 成就感を高めるための指 導の工夫	・学習意欲を高める導入の工夫や、めあての提示と見通し、学習の振り返りを徹底した授業づくり ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた教材や授業展開の工夫 ・デジタル教材やタブレット等のICT機器の効果的な活用	・「国語(算数)の授業の内容はよく分かりますか。」という質問では、肯定割合が国語・算数共に94・1%で、国の平均を上回っている。 ・「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。」という質問では、「ほぼ毎日」と「週3回以上」と回答した児童が、70.5%と、全国平均を大きく上回っている。 ・「5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、友達と協力しながら学習を進めることができる。」という質問で、肯定割合が94.1%で、全国の平均を上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・児童質問紙において、英語の学習に関するどの質問に対しても、肯定割合が国や県の平均を下回っている。	・全職員と児童との英語による会話 ・生活の中におけるAETとの積極的な会話	・学年ごとの英語の学習内容を掲示し、それを基にして休み時間等に職員と英語で会話をする機会を設ける。 ・「一日一回は話す」「今週の質問」と学級でテーマを決めて積極的なやりとりを促す。